

記者発表資料
令和8年1月14日
教育庁高校教育創造室
担当：永田
電話：022-211-3710

新たなタイプの学校（idealスクール）と大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校の新設に係る校名案について

中部地区において、宮城広瀬高等学校を転換し、令和9年4月に開校する新たなタイプの学校（idealスクール）の校名案と、大崎地区（東部ブロック）において松山高等学校、鹿島台商業高等学校、南郷高等学校を再編し、現在の鹿島台商業高等学校の敷地内に、令和9年4月に開校する大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校の校名案を、下記のとおり選定しました。

なお、校名は、県立学校条例の改正により正式に決定されます。

記

1 校名案

（1）新たなタイプの学校（idealスクール）

「（仮称）宮城県広瀬ideal高等学校」

（2）大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校

「（仮称）宮城県大崎創成高等学校」

2 選定理由

（1）新たなタイプの学校（idealスクール）

「広瀬」は学校の所在地を示しており、地域の歴史と文化を体現している。また「ideal（アイデアル）」は、新たなタイプの学校のタイプ名として長く使用されてきた。「理想、理想的な」という単語そのものの意味だけでなく、1文字ずつに「inclusive（インクルーシブ）＝共に学ぶ」「diversity（ダイバーシティ）＝互いを認め合う」「empowerment（エンパワーメント）＝力を引き出す」「achievement（アチーブメント）＝目標を達成する」「learning（ラーニング）＝身に付ける」との意味が込められており、まさに新設校の理念を余すところなく表している。

宮城広瀬高等学校を転換し、多様な生徒たちの個に応じた学びを実現する学びの場として開校する高校にふさわしい名称であると判断したものである。

（2）大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校

「大崎」は、新しい学校の所在地を示し、「創成」は、再編対象校の松山高等学校・鹿島台商業高等学校・南郷高等学校の学びを継承し、これからの中高連携で必要な専門的な知識や技術を身に付け、地域社会の活性化に貢献できる人材を育成するという意味が込められており、専門科目で「農業・家庭・商業」の各分野を学ぶことができ、「食」をテーマとする専門教育を展開し、社会的・職業的自立に必要な能力を持った生徒を育成することを目指す学校の特色を表している。

大崎地区（東部ブロック）の専門教育を担った上記3校を再編して、生徒達の新たな学びの場として開校する高等学校にふさわしい名称であると判断したものである。

3 検討経過

新たなタイプの学校（idealスクール）については令和7年6月から令和7年10月までの間に、大崎地区（東部ブロック）職業教育拠点校については令和7年7月から11月までの間に、学校関係者等による「校名等選考委員会」を2回開催し、校名について公募も行った上で検討を行った。

その検討結果を踏まえ、教育庁内の「県立学校校名選定委員会」において、検討及び協議を行い、校名案を選定した。